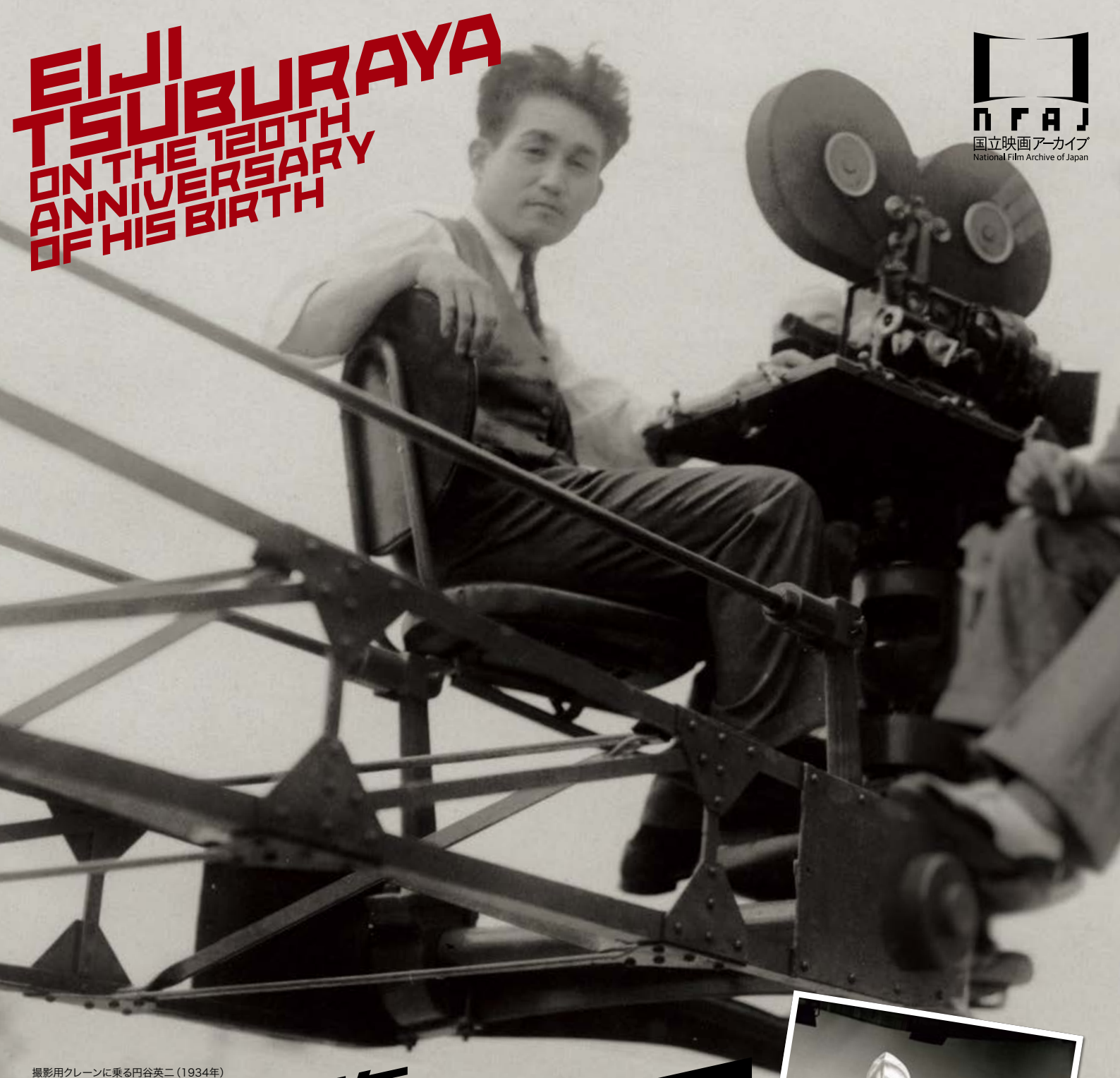


**EIJI
TSUBURAYA**
ON THE 120TH
ANNIVERSARY
OF HIS BIRTH

NFAJ
国立映画アーカイブ
National Film Archive of Japan



撮影用クレーンに乗る円谷英二(1934年)

生誕120年
展覧会
円谷英二展

2021.8.17(火) - 11.23(火祝)

*月曜日および9月7日(火)~10日(金)、9月26日(日)~10月3日(日)、10月12日(火)~15日(金)は休室です。

国立映画アーカイブ展示室(7階)

開室時間:午前11時~午後6時30分(入室は午後6時まで) *会期および開館時間等に変更がある場合はホームページでお知らせします。

料金:一般250円(200円)/大学生130円(60円)/65歳以上、高校生以下及び18歳未満、障害者(付添者は原則1名まで)、

国立映画アーカイブのキャンパスメンバーズは無料 *料金は常設の「日本映画の歴史」の入場料を含みます。

*()内は20名以上の団体料金です。 *学生、65歳以上、障害者、キャンパスメンバーズの方は入室の際、証明できるものをご提示ください。

*国立映画アーカイブが主催する上映会の観覧券(半券可)をご提示いただくと、1回に限り団体料金が適用されます。

*2021年11月3日(水・祝)「文化の日」は、無料でご覧いただけます。

国立映画アーカイブホームページ www.nfaj.go.jp/ Twitter: @NFAJ_PR Facebook: NFAJPR Instagram: nationalfilmarchiveofjapan

主催:国立映画アーカイブ、須賀川市 特別協力:円谷プロダクション



©円谷プロ

【新型コロナウイルス感染症拡大予防のため】マスクの着用のない方(2歳未満は除く)、体温が37.5℃以上の方は入館をお断りいたします。

日本博 JAPAN
CULTURAL
EXPO

beyond
2020

私たちは「ゴジラ」や「ウルトラマン」のいない日本の映像文化の歴史を想像できるでしょうか？ さまざまな特殊撮影の技術を駆使した日本の映画・テレビ作品は、世界各国のファンの心をつかみ、現在も限らないリスペクトに包まれています。そして日本の映像界が世界に誇るこうした技術を切り拓いた“特撮の父”円谷英二（1901-1970、本名英一）は、この2021年に生誕120年を迎えます。

福島県須賀川町（現・須賀川市）に生まれ、若き日は飛行機の操縦士を目指した円谷は1919年に東京で映画界に入り、京都では当時鋭い監督衣笠貞之助の率いるグループに参加したのち、松竹の新スター林長二郎（のちの長谷川一夫）を擁した時代劇のフレッシュなカメラマンとして頭角を表します。アメリカ映画『キング・コング』（1933年）に魅入られて特撮の研究を始めた円谷は、やがてミニチュア撮影により東宝撮影所の航空映画に貢献し、戦争映画『ハワイ・マレー沖海戦』（1942年）では日本映画界全体に特撮の意義を知らしめました。そして戦後、たゆまぬ創意工夫を通じ、日本初の「特技監督」として東宝撮影所などから数々の戦争映画・怪獣映画・SF映画を送り出し、1963年には円谷特技プロダクション（現・円谷プロダクション）を興してテレビ特撮の礎を築き、後進の育成にも努めた史実は誰もが知るところです。

近年、東宝特撮映画や円谷プロの「ウルトラマン」シリーズなどの特撮をめぐる研究は高度な達成を見せ、名スタッフの功績や技法に注目した展覧会も頻繁に行われていますが、これまで円谷自身を日本映画史の中に位置づけようとする機会は多くありません。その生誕120年を記念して、須賀川市との共催により実現する本展は、イギリスで新たに発掘された円谷撮影の初期作品『かぐや姫』（1935年）も含めて、若き日の功績にも注目しながらその生涯を紹介します。

What would Japan's visual image culture be without *Godzilla* or *Ultraman*? We can scarcely imagine. Japanese movies and television productions made with the skillful use of special effects have thrilled fans around the world and earned enduring respect. The pioneering force behind those world-renowned effects was Eiji Tsuburaya (1901-1970), a man revered as Japan's "father of special effects." This year marks the passage of 120 years since his birth.

Tsuburaya was born in Sukagawa, Fukushima Prefecture. Although he aspired to be a pilot as a youth, he entered the film industry in Tokyo in 1919. He joined a group led by the talented and energetic director Teinosuke Kinugasa in Kyoto and later distinguished himself as an ambitious young cameraman of period dramas featuring Shochiku's new star, Chojiro Hayashi (later known as Kazuo Hasegawa). Tsuburaya began developing special effects after being captivated by the American picture *King Kong* (1933), and this eventually led to his bringing miniature effects to Toho Studios' aviation movies. His work for the wartime film *The War at Sea from Hawaii to Malaya* (1942) made the entire Japanese film industry take notice of special effects' value. After the war, he applied his seemingly boundless ingenuity to become Japan's first "special effects director" and help Toho Studios send numerous war, monster, and science fiction movies into theaters. In 1963, he established Tsuburaya Productions, where he paved the way for special effects on television. His dedication to nurturing up-and-coming talents is legendary.

The techniques featured in Toho Studios' special effects extravaganzas, Tsuburaya Productions' *Ultraman* series, and various other productions have been the subject of highly fruitful research in recent years, and the accomplishments and expertise of renowned technicians are frequently highlighted in exhibitions. However, relatively few attempts have been made to establish Tsuburaya's standing within Japanese film history. This exhibition will commemorate the 120th anniversary of Tsuburaya's birth as an event co-organized with Sukagawa City. It will present Tsuburaya's life and times while giving attention to his accomplishments as a young man among them *Kaguya-hime* (1935), an early work that was found in the United Kingdom.

《特撮の父》——その黎明から開花へ



図版 A 『乱軍』（1927年、松竹下加茂、犬塚稔監督、円谷英二撮影）ポスター
 B 『かぐや姫』（1935年、J.O.スタジオ、田中喜次監督、円谷英二撮影）
 C 『小唄 鳥追お市』（1936年、J.O.スタジオ、円谷英二監督）
 D 『カメラワーク』1933年臨時号（1933年4月5日発行、日本カメラマン協会）
 E 『ハワイ・マレー沖海戦』（1942年、東宝、山本嘉次郎監督）ミニチュアセット
 F 『太平洋の嵐』（1960年、東宝、松林宗憲監督）ポスター
 G 『海底軍艦』（1963年、東宝、本多猪四郎監督）ポスター
 H 『モスラ対ゴジラ』（1964年、東宝、本多猪四郎監督）ポスター
 I 『長篇怪獣映画 ウルトラマン』（1967年、円谷プロ、円谷一監督）ポスター
 （以上、国立映画アーカイブ所蔵）

展覧会の構成

- 第1章 若き映画カメラマンとして
- 第2章 特撮への志
- 第3章 東宝特撮の時代
- 第4章 円谷プロの創設

関連上映企画 『かぐや姫』上映

2021年9月4日（土）、5日（日） 会場：国立映画アーカイブ 小ホール（地下1階）
 円谷英二が撮影を手掛けた『かぐや姫』（1935年、J.O.スタジオ、田中喜次監督）の海外向けの再編集短縮版がイギリスで発見されて里帰りしました。
 ＊詳細は後日ホームページなどでお知らせいたします。

円谷英二の出身地、福島県須賀川市でも生誕120年を記念する展覧会が開催されます。
 2021年12月18日（土）～2022年1月30日（日） 須賀川市文化センター 小ホール

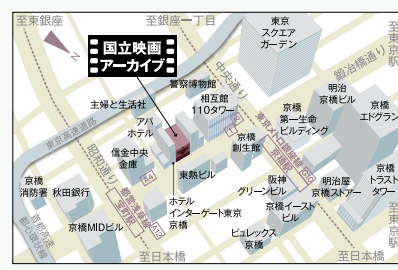
マスク着用のない方（2歳未満は除く）、体温が37.5℃以上の方は入館をお断りします。

【当館の新型コロナウイルス感染拡大防止策】
 ＊来館者全員への検温を実施。＊館内各所に手指用消毒薬を設置。＊清掃・消毒を強化。＊展示室内の換気を強化。＊スタッフはマスク・手袋等を着用して対応。
 ＊受付等の対面場所に飛沫ガードの設置。

【ご来館の皆様へお願い】
 ＊発熱や風邪などの症状がある方は、来館をお控えください。＊館内ではマスクを常時着用ください。＊館内で体調を崩された場合は、スタッフにお知らせください。＊こまめな手洗いや手指の消毒にご協力ください。＊入退場やご観覧の際は、互いに適切な距離を保つようお願いいたします。＊展示室内での会話はお控えください。＊ロビー等での飲食は、蓋の閉まる飲み物以外は禁止にさせていただきます。＊感染発生時の入館者追跡のため、ご自身で入館日時の記録をお願いします。その他、感染症防止に関する当館の指示をお守りいただきますようお願いいたします。



〒104-0031 東京都中央区京橋3-7-6
 お問い合わせ：ハローダイヤル 050-5541-8600
 国立映画アーカイブホームページ
www.nfaj.jp/



交通
 ▶ 東京メトロ銀座線京橋駅下車、出口1から昭和通り方向へ徒歩1分
 ▶ 都営地下鉄浅草線宝町駅下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分
 ▶ 東京メトロ有楽町線銀座一丁目駅下車、出口7より徒歩5分
 ▶ JR東京駅下車、八重洲南口より徒歩10分